

# やまがた創生便り

シンポジウム鼎談特集号  
2019.3.28

## 平成30年度 COC+シンポジウム 「オールやまがたによる若者定着を目指して」

去る1月10日に山形国際ホテルにて、平成30年度山形大学「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」シンポジウムを開催しました。

第1部として行われた、吉村美栄子氏(山形県知事)、清野伸昭氏(山形県商工会議所連合会会長) 小山清人(山形大学学長)による鼎談の様様をご紹介します。



## 鼎談の趣旨

**小山** 人口減少時代にあって山形県においても若者の県内定着が大きな課題となっています。若者の転出超過現象は、産業の人材確保や経済活動の衰退、コミュニティ活動の困難などの問題につながるため、その解決に向けては県内進学・就職の促進、地域の魅力を伝える学習、新たな産業・雇用の創出など、様々な取組がなされています。

この鼎談では、若者定着をさらに推進するために吉村知事、清野会長と共に総合的に話し合い、次の取組イメージを考えてみたいと思います。お二方、どうぞよろしくお願い致します。では、最初に若者定着の現状について吉村知事にご説明をお願い致します。

## 若者定着の現状

### 若い世代に意識の変化と高まる地方・田園回帰志向

**吉村** 私は、「自然と文明が調和した新・理想郷やまがた」を将来ビジョンとして掲げています。そ

れを実現するための原動力は人材、特に若い人材です。そのため、若者の県内定着、県内回帰にしっかり取り組まなければと考えております。

まず、山形県人口の社会増減の状況は、転入者よりも転出者が多い社会減が続いていますが、近年はその減少幅が縮小傾向にあります。特に、若い世代に意識の変化が見られ、地方回帰志向、田園回帰志向が高まっています。都内にある地方への移住を支援する相談窓口「ふるさと回帰支援センター」の利用者は年々増え、特に、30代以下の若者が全体の半数を超えています。山形県の相談窓口「やまがたハッピーライフ情報センター」も同様、20代、30代からの相談が半数を超えています。その一方で、マイナビによる調査結果では、平成31年卒業予定の地元外進学者のうち地元での就職を希望する人は33.8%と5年前の42.9%

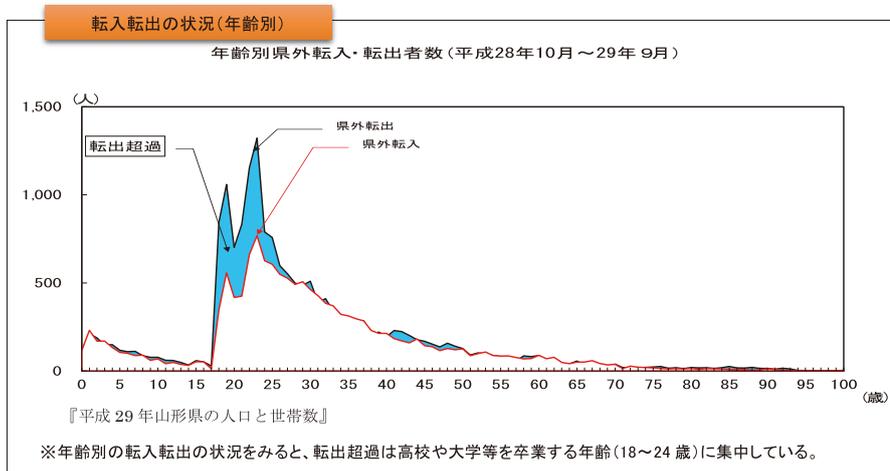


を大きく下回っています。これは全国的人手不足による売り手市場を背景に、都市部での就職条件が以前よりよくなっていることが大きな要因と考えています。

「やまがたハッピーライフ情報センター」への相談内容は、就職や就農に関するものがもっとも多く、地方回帰や移住の推進には、若者が求める仕事を確保することが重要です。若者は何を重視して仕事を選ぶのか。内閣府の調査では、収入と同じくらいに福利厚生や家庭・プライベートの充実などを重視する傾向にあります。東京一極集中が続く流れの中、その流れの底にはゆとりある質的に豊かな地方での暮らしを求める若者の姿が見えてきます。それがかなう山形県の良さを伝えていくことが重要だと考えています。

**小山** では次に、雇用の状況については清野会長からお話をお願い致します。

**清野** 平成21年には0.36だった山形県の有効求人倍率が、平成30年には1.64倍と人手不足に転じて



います。日本銀行山形事務所が行っている「山形短観」によると、非製造業の人手不足がより深刻で、若者に絞るとさらに顕著という実態が見えてきます。平成29年度の山形大学の卒業生は、残念ながら3分の2が県外に流出。特に、工学部が87.2%、農学部が80.8%と非常に流出傾向が高いようです。いかに県内就職を増やすかが私ども産業界の大きな課題と言えます。そのためには、魅力ある企業づくり、まちづくりに取り組んでいかなければなりません。

**小山** ここで山形大学の就職状況についてご説明いたします。確かに、理系の学生が特に県内就職率が低く、大学院の修了生となるとさらに低い状況にあります。このことを踏まえ、次のテーマとして、魅力あるまちづくり、企業づくり、大学づくりを推進していくという視点で話をしていきたいと思えます。では、清野会長より産業やまちづくりの観点からお話し願います。

## 若者定着を推進する視点

### 魅力あるまちづくりとITに強い人材の育成、確保

**清野** 山形に限らず、全国の地方都市の中心市街地が空洞化している現実を政府も問題視し、中心市街地活性化基本計画に取り組んでいる都市に対して様々な助成策を設けています。しかし、それらは建物に対する補助といった“点”的なプランになりがちなため、山形

市では、より長期的なビジョンとなる新たな方向性を示す計画として産学官一体の「中心市街地活性化戦略本部」を設け、一年ほどかけて商店街だけではなく、幅広い観点からまちづくりを検討してきました。居住・ビジネス・環境・観光・医療・福祉・子育て・文化芸術といった要素によって魅力を向上させようという基本計画が近々最終決定する予定です。そのまちづくりに若者にも参加してもらうことを考えています。

次の視点としては、<sup>※1</sup>ITを活用できる人材の育成・確保の重要性が上げられます。平成30年間の歴史には様々なことがありましたが、なんと言っても社会や人々の暮らしを画期的に変えたのはインターネットなどのIT技術だと思います。今後も膨大なデータをベースに<sup>※2</sup>AIや<sup>※3</sup>IoTなど第4次産業革命と言われる社会が着実

に進んでいくでしょう。従って、今の人口減少の中でそれをカバーできるAIやIoTを駆使・活用できる人材の育成と確保は急務であり、若者の定着を目指す上でも重要と考えます。

**小山** ITやIoTに関しては、地理的条件は問わないので東京も山形も同じ、地方にとっては有利と言えるのではないのでしょうか。

**清野** その点、山形大学は進んでいるので心強く思っています。

**小山** 若者の価値観も多様化しており、幸福感もさまざま。まちづくりについても若者が何を望んでいるのかを私たちも意識していく必要があると思います。

### 各世代で郷土愛を醸成し、県内進学・就職、Uターン支援

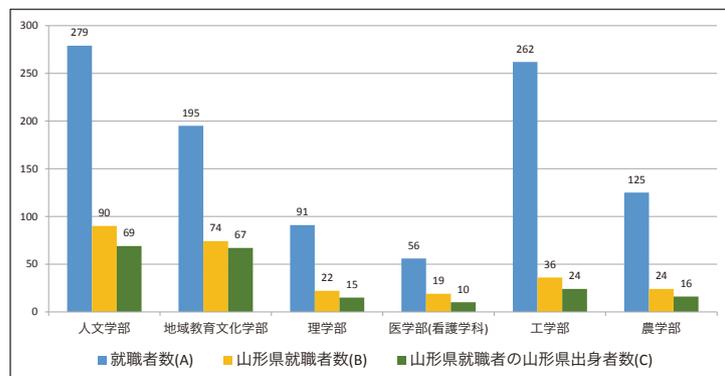
**吉村** 私からは若者の地元定着・回帰に向けて重視する視点をいくつか述べさせていただきます。

※1 IT：Information Technologyの略、情報技術

※2 AI：Artificial Intelligenceの略、人工知能

※3 IoT：Internet of Thingsの略、モノのインターネット：様々なモノに組み込まれたセンサーをインターネットで接続し、得られたデータから新しい価値を生み出す仕組み

平成29年度の就職状況



	人文学部	地域教育文化学部	理学部	医学部(看護学科)	工学部	農学部	大学
山形県就職者率 B/A	32%	38%	24%	34%	14%	19%	26%
山形県就職者の山形県出身者率 C/B	77%	91%	68%	53%	67%	67%	76%

## 地域を愛する心、郷土愛やアイデンティティの醸成

小・中・高・大、それぞれの段階で地域を知って、感じて、参加して地域の暮らしを深く理解するような教育を展開することが大切だと考えます。COC+の授業でも地域学習と体験学習を盛り込んだ新たなカリキュラムを開発するなど、大学でも地域を理解する取組を進めていると聞いています。県でも地域の伝統芸能や祭りへの参加など、様々な体験活動や、地域の企業と連携した職場見学・体験などにより子どもの頃から郷土の自然、歴史や文化、産業に触れて親しむ機会を拡大して地域に対する理解や愛着を高める取組を進めています。地域に対する愛着が育まれば、一旦、県外に出ても戻ってくるのが期待できますから肝と言えると思います。



## 県内進学への促進

大学や短大、専門学校への進学者のうち、7割近くが県外に進学している現状に対して、県内進学を促進するためには、県内の高等教育機関の教育、研究機能を充実させ、その魅力を高めていくことが求められます。その上で、県内外の高校生や保護者にその魅力を知ってもらうことが必要です。

**小山** 確かに、県内高等教育機関の入学定員約3,000名に対して県内からの入学者は約900人に留まっています。いかに地元の大学への進学率を高めるか、小・中学生時代から地元がいい大学があることを知ってほしいものです。

## 吉村

### 県内進学者の地元就職と、県外進学者のUターン就職の促進

特に、Uターン就職について県では首都圏の16の大学と協定を結び、学生に対する情報発信や相談、対応、経済的な支援に取り組んでいます。

また、仕事に給料だけでなく安定やワークライフバランスを求める若者のニーズに応える魅力ある仕事や働き方が重要です。意欲ある若者の起業・創業を増やしていくことや研究機関や本社機能を誘致することも有効でしょう。また、

県内企業の正社員化を支援し、安定した雇用を増やしていくとともに、ワークライフバランスの促進、多様で柔軟な働き方の普及など、働き方改革を進めてまいります。

もちろん、若者の回帰・定着には仕事だけではなく、若者が地域で役割を持ってその個性と能力を発揮しながら活躍し、それを誇りに思えるような地域づくりも大切です。平成23年度から実施している「輝けやまがた若者大賞」は、若者の地域づくり活動を顕彰する事業で、若者にやる気や自信を持って地域づくりに参加してもらう狙いがあります。また、県内各地で地域おこし協力隊の隊員が様々な地域活動を行っており、それらを核とした地域づくり活動に若者の主体的な参加を促していくことも重要と考えています。

## オール山形による取組を推進

若者定着に向けては、昨年9月に産学官、金融、労働、報道など、各界が参加する「オールやまがた人材確保・生産性向上推進協議会」を清野会長や小山学長からご協力いただき立ち上げました。この協議会は、本県産業の持続的発展を図るための人材確保と生産性向上にオール山形で連携、協力して取り組むことを主眼とし、若者定着・人材確保対策部会も設置しています。今後はこの部会を中心に具体的な取組を検討し、今後の事業に反映させていきます。

**小山** 様々な取組について網羅的にお話しいただきありがとうございました。今の知事のお話を受けて、清野会長の方からは何かありますでしょうか。

**清野** 「オールやまがた人材確保生産性向上推進協議会」が立ち上げられたことにより様々な問題解決のための土台が築かれたと思います。その中で、私ども産業界としてどんな役割を果たしていくべきか、産学官などがどのように連携していくかが重要なカギになると考えています。

## 今後の取組方の構想

### 働きがいのある会社づくりと地域文化息づくまちづくり

**小山** では最後に、今後の取組方の方向性について、清野会長からお話をお願い致します。

**清野** 若者定着問題は、少子化問題の延長線にあるということだけではなく、地域の文化など極めて多面的に考える必要があると思っています。産業界としては、若者にとって魅力ある会社、企業を目指していかなければなりません。経営者は、働き方改革、ワークライフバランス、健康経営等をしっかり自覚した上で、社員一人一人がやりがい、働きがいのある会社づくりに努力してほしいと思います。

一方の若者たちにとって魅力あるまちづくりには、若者が気楽に集まって話せる場所づくりやそれぞれの町にある様々な祭りへの参加を促すことも一助になると考え

ています。

**小山** 魅力ある会社、魅力あるまちづくりに一丸となって取り組んで参りましょう。私は、山形交響楽団に代表されるように山形は文化度が非常に高いと思っています。最近では、若者の参加も増えており、その傾向がどんどん進んでくれば良いと思っています。次に、知事よりこれまでの実績を踏まえた今後の取組に関してご説明をお願いいたします。

### 多面的に若者定着の取組を推進

#### 地域の理解・交流を深める

**吉村** 平成28年度から「郷土yamagataふるさと探究コンテスト」を行い、小・中・高校生の地元に関する調査研究や地域における実践活動を助長するとともに、新聞や「ものづくりガイドブック」を活用した地域教育活動にも取り組み、郷土愛やアイデンティティの醸成に努めています。また、山形の歴史や文化、自然を知り、触れる機会を増やすために日本遺産や山形百名山、里の名水やまがた百選などの取り組みにも力を入れています。さらに、「SHONAI STYLE」という冊子やWebで庄内地域の若者の多彩な生き方を発信していますが、今後はこうした取り組みを拡大し、地域への理解と交流の拡大につなげていきたいとも考えています。

### 県内進学への促進

次に、県内進学促進に向けては、県内進学希望者の受け皿となる県立の高等教育機関の充実を図りました。

- ①平成26年4月、県立米沢栄養大学を開設。平成30年4月、大学院を開設。
- ②県立農林大学校に林業経営学科を開設。
- ③県立産業技術短期大学校に土木系学科として全国初の土木エンジニアリング科を開設。
- ④県立保健医療大学に博士後期課程を開設。



また、大学をはじめとする県内高等教育機関の情報ポータルサイト「山形で学ぼう進学ガイド」の開設、パンフレット配布など、県内の高等教育機関を高校生や保護者に周知することにも尽力しています。「県外に行くな」と制止す

るのではなく、県内の学校の情報をより積極的に発信していく、産業も同様ですが、まず知ってもらう努力が大事です。さらに、オープンキャンパスへの参加を促すための送迎バスへの支援やPRイベントへの助成を行い、県外からの進学者の誘致にも力を入れていきたいと思っています。その他、小・中学校における職場見学・体験、高校生のインターンシップや地元企業経営者、若手社員との交流会など、将来、地元で働くイメージを持ってもらい、県内定着につなげる取り組みも推進してまいります。

#### Uターン就職の促進

次に、県外進学者のUターン就職の促進には学生に県内企業の情報を届けることが重要と考え、本県からの進学者が多い大学を中心

に首都圏の16の大学と「学生U・Iターン就職促進に関する協定」を締結して連携を強化しています。この協定に基づき、大学の就職支援担当者と県内企業の人事採用担当者との情報交換会を開催し、就職ガイダンスや保護者会における情報提供を行っています。その他、山形県就職情報サイトによる県内企業が持つ優れた技術や強み、求人・インターンシップ情報の提供や東京における県内企業合同就職説明会の開催、電子メールやダイレクトメールによる学生への情報提供など、県内企業の情報を積極的に発信しています。併せて、県と市町村、産業界が一体となって取り組む本県ならではの奨学金返還支援や、県内企業の採用面接やインターンシップ時の交通費の助成などにも取り組んでいます。

#### 魅力ある仕事づくり

一方、魅力ある仕事づくりとしては、新たな発想と意欲を持った若者を応援するために今年度から若者創業応援プロジェクトを開始しました。創業者育成キャンプや先輩事業者のもとで経験を積むインターンなどを展開しています。また、若者の正社員化や所得向上を図るための本県独自の奨励金「正社員化促進事業奨励金」「所得向上促進事業奨励金」「業務改善奨励金」を全国に先駆けて創設しています。

働き方改革については、県では働き方推進アドバイザーの企業訪問やセミナーの開催など、ワークライフバランスの重要性の周知・啓発などに取り組んでいます。個々の企業や産業界の主体的な取り組みが欠かせませんので清野会長には是非ご協力をお願い致します。

#### 若者や移住者、留学生など人材の県内定着を促進

一方、若者の地域での活躍を後押しするために若者たちと私が車座になって地域に対する思いや将来像を語り合う“地域創生ミーティング”を実施していますが、そこから生まれたアイデアの実現などをサポートする総合相談窓口「若者支援コンシェルジュ」の設置など、若者の活動へのサポート体制を整備したところです。さらに、県では市町村と連携し、移住にも力を入れています。首都圏で



先輩移住者と意見交換を行う移住セミナーの開催、過疎市町村における若者移住世帯向けの賃貸住宅建設への支援、空き家の賃貸住宅への利用活用推進支援を行うとともに、米・味噌・醤油1年分の提供など、食糧の自給率138%前後という食が豊かな山形ならではのユニークな支援も設けています。

さらに、政府の制度を活用し、来年度から東京圏から地方に移住し、地方中小企業等に就職した場合は最大100万円、起業した場合は最大300万円を支給する制度を予定しています。今後は、オール山形体制のもので移住者一人一人の住まいや仕事、暮らしのニーズに寄り添い、移住者目線の情報発信、移住希望者のマッチングやコーディネート機能の強化等に取り組んでまいります。加えて、とりわけチャレンジ精神に富んだ人

材である留学生は、地域産業発展の担い手となり得る重要な人材です。その受け入れを拡大していくとともに、県内定着を促進したいと考えています。山形大学をはじめ、各大学の取組にも大いに期待しておりますので、小山学長、よろしくお願い致します。

また、留学生の県内定着には留学生が卒業後に働く場が必要です。県では、留学生と企業のマッチングを進めていきますが、産業界にも留学生を積極的に活用する気運を盛り上げていただきたいので、清野会長にもご協力をお願い致します。

### 鼎談からのメッセージ

**小山** ありがとうございます。大変具体的な説明に加えて産業界と教育界に宿題をいただきました。私も留学生や大学教員も含めた外

国人労働者は、重要なポイントだろうとお聞きしました。

さて、三人で論議を深めて参りましたが、若者定着を目指しての共通認識も見えてまいりましたので、私の方で「鼎談からのメッセージ」として3点にまとめさせていただきます。

以上です。この内容にご賛同いただけますでしょうか。

**吉村** このメッセージに賛同致します。是非、オール山形で取り組んでいきましょう。

**清野** 私も賛同致します。特に、3番目の産学官の連携、これをいかに具体的に事業化していくかということが大事だと思いますので、我々も頑張っ参ります。

**小山** では、我々三人の決意として表明させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

### 鼎談からのメッセージ“若者定着を目指して”

「オールやまがたによる若者の定着を目指して」を論議する中で、さらなる若者の定着を一步進めるために次のような共通認識に至りました。

1. 若者人口の減少は地域衰退に結びつく、という強い危機意識を持って若者定着に臨んでいく必要があります。また、若者定着の課題は様々な要因が複雑に絡み合っています。その成果を見るまでに、中長期的にしっかりと取り組んでいきます。
2. 若者定着の課題に対して、“山形県を若者社会に変革していく”といった明るい展望を示しながら、オール山形で全県的に取り組んでいきます。
3. 若者定着を具体的に推進するために、産学官の多様な連携事業を模索し、事業化を目指していきます。